

渡辺交配

予告品種

## NX-BP145

チンゲンサイ



酷暑期のチンゲンサイ産地の抱える課題としては、①耐暑性(チップバーン)、②収量性、③耐病性(軟腐病など)が挙げられます。③については、栽植密度や灌水方法の見直しで対応ができる場合がありますが、①、②については、品種能力に依るところが大きい

のが実情です。弊社は「ニイハオ新1号」(1999年)以降、複数の夏用品種を発表していますが、今回、弊社の夏用品種育成の粋を集めた新品種、「NX-BP145」を紹介し、先進地域での試験を実施しましたので、結果を報告します。

## 2022年の試験結果(茨城県行方市)



## ポイント1

## 高い耐暑性を発揮

梅雨明け後の7月18日に撮影(ハウス内)。昼間の撮影でやや葉身が萎れていますが、葉縁部のカールや芯部のカルシウム欠乏症は見られません。



## ポイント2

## 高い収量性

酷暑期でも十分な株張りと葉身の大きさを確保。やや早生の性質で従来品種よりも2~3日早くこのステージに達する点も畑に置く期間を短くし夏季栽培では大きなメリットがあります。



## ポイント3

## Lサイズ中心の収穫がおすすめ

やや早生の性質は、酷暑期においては老化の進行の懸念もあります。Lサイズでの収穫を心掛け、大きくし過ぎないことが秀品収穫のポイントです。



同品種に関する詳細は弊社営業部までお問い合わせください!